

富士フイルムホールディングス株式会社
2023 年 3 月期第 3 四半期 決算説明会
主な質疑応答

Q: 第 3 四半期実績について、社内計画に対する営業利益の遂行状況を教えてください。

A: 第 3 四半期の営業利益は過去最高の 818 億円となり、全体としてはほぼ社内計画通り。

ヘルスケアは、バイオ CDMO 事業でのコストインフレ影響やプロセス開発案件遅れ、及びライフサイエンス事業における原材料の需給逼迫をうけた培地の販売減により、計画未達となった。マテリアルズは、電子材料事業において、半導体市場でロジックの市況が想定以上に軟化した影響をうけて、計画未達となった。ビジネスイノベーションはほぼ社内計画通り。イメージングは INSTAX やデジタルカメラ新製品の好調な販売等により、計画超過となった。ヘルスケアや高機能材料が成長ドライバーとして、当社の注力事業であることにブレはなく、来期以降に再び伸長させていく。

Q: イメージングが好調の要因と、来期以降の見通しは？

A: 今期は「INSTAX SQUARE Link」やデジタルカメラ「X-T5」、「X-H2S」、「X-H2」などの新製品をタイムリーに上市し、販売できたことが好調の要因。INSTAX フィルムやデジタルカメラは世界的に需給が逼迫し、顧客に製品を届けきれない状況にある。増産等で製品供給を確実に行うとともに、今後も魅力的な新製品を提供し続けることで、好調なトレンドを維持していく。

Q: 自己株式の消却を決めた背景は？

A: 発行済株式総数を適正化し、市場における希薄化への懸念を払拭するために経営として判断した。これまでは大型 M&A への活用等を目的に保有していたが、設備投資・研究開発への成長投資を軸とする現経営戦略を遂行する中で、当初目的での自己株式の活用機会は当面ないと判断し、消却を決定した。

以上